

## 小松駅東西土地区画整理事業

受賞機関 小松市

はじめに

石川県小松市は加賀百万国城下町の膝元である県都金沢から30kmほど南西方に位置し、金沢城三代藩主前田利常が自分の隠居城として小松城を拡張、文化と産業を発展させ今日のいしずえを築いた歴史あるまちである。市域は371.13km<sup>2</sup>と広域で西北端は日本海に面し、方面には謡曲「安宅」や歌舞伎の「勧進帳」の舞台となった安宅の関址がある。一方の東南端は、丘陵部・山間部を経て霊峰白山の麓に位置する郡部と接し、海・山の幸など潤沢な食材と風光明媚な地で、人口11万人によって支えられている。

市街地中心部は、小松駅から旧城下一帯にかけて商業地が形成された。戦後、駅前通り・三日市・八日市・中央通りなどの中心商店街では人々が往来し栄華を極めたが、その後モータリゼーションの加速的な発達とともに客足も次第に鈍り、中心市街地における空洞化現象をもたらし、いずこの市街地でも抱える共通の悩みとなっている。

事業化

このような時勢下のもと、「こまつ100年の大計」と銘打ち、JR小松駅を中心とする北陸本線3.64kmの連続立体交差事業と併せて「小松駅東・西土地区画整理事業」とのいわゆる三点セット事業に着手した。

JR軌道は開設以来、複線化、電化など鉄道による物流需要に应运えてきたが、車型社会への推移とともに駅付近での踏み切りにより横断交通が遮断され、市街地活性化の阻害要因となっていた。区画整理は、家屋などの移転作業と並行してJR仮線用地の確保や用地先行取得や鉄道横断陸橋除去の迂回路対策のための区域内幹線道路の緊急整備が必要とされた。

このように極めて厳しい工程管理のなか、道路・公園・駅広場などの公共施設整備を進めなければな

らなかったが、今春予定どおり完成するに至った。通常、このような制約条件のもとでは、当初の事業期間内での遂行は不可能と目されるが、当初予定のおよりの10年間で完成したことは筆舌に尽くしがたいものがある。

ふるさとの顔づくり計画

「ふるさとの顔づくりモデル計画」については、平成6年9月に地区指定を受け、小松市の顔として相応しい景観整備・整備グレードを官・民一体で協議の末、計画の承認を受けた。

実現化の方策として「地区計画」の策定により街区単位で民間開発の誘導・規制を設け、関係住民を集め意義・効用について理解を求めた。

「顔づくり計画」は、区画整理手法のみにとどまらず、魅力的な都市拠点づくりを融合させた画期的な制度であり、合同庁舎(5つの入居官署)や複合文化施設“うらら”の拠点街区へ導入を果たす等の主産物がある。

加えて「顔づくり計画」導入の副産物として、景観への関心度が深まってきたところにある。駅西地区駅前広場においては、単なる従来のバスロータリー機能のみにとどまらず、バス待ちシェルターとの一体化モニュメントを設置した。モニュメントは、ロータリーの上空部で四輪を描く。小松市章の松と北陸地方の風物詩である「雪つり」をイメージして構成したものであり、特に、夜景のイルミネーション効果は格別で、光ファイバーから放つ光の造形美といった感で駅部へ集う人たちに和やかさを醸し出している。

おわりに

申請要件も厳しいなかで、補助金の承認を受けながらも、わが市財政規模から区画整理事業関連180余億円を含む三点セット事業費600億円の集中的投入は、まさに100年規模でしか成しえない偉業である。このような経過を辿り“街が変わる、小松が変わる”を枕言葉に、均衡ある市街地の発展と、中心市街地の活性化に資するものと確信している。また、全国各地の自治体からも職員、議員、自治会など各界・各層の方々々が頻りに訪れ、その都度、関心を寄せている。

賛助会員 青木あすなる建設(株)小松営業所、(株)サンワコン金沢支店、鉄建建設(株)金沢営業所、パシフィックコンサルタント(株)金沢事務所



全景